

企業支援で 弁護士の卵

沖縄育成制度で2人司法試験合格

沖縄銀行（玉城義昭頭取）でリーガル・アシスタントとして嘱託で勤務した琉球大学法科大学院の卒業生、今泉多映子さんと高塚千恵子さん。写真左から右がこのほど、司法試験に合格、弁護士への切符を手にした。

沖縄銀行は同法科大学院で初の卒業生が出た2007年から、社会貢献活動の一環で卒業生を嘱託採用している。これまで受け入れた9人のうち4人が合



格した。同大学院法務研究科長の渡名喜庸安氏によると、給料を支払う形で

受験者を支援する企業は「全国的にも例がない」という。司法試験の受験者の多くは、勉強の傍らアルバイトで生計している。沖縄銀行は地元ローコストスクール出身者を支え、将来を担う人材を育成するため支援制度を創設。静かな環境で学べる専用学習室も設けた。

支援は1年間。11月の採用から試験のある5月までは勉強に専念。残り半年はリスク管理部でコンプライアンス対策や法務相談などを手伝う。

今泉さんは「支援のおかげで安心し

て勉強に専念できた」と喜ぶ。高塚さんは「銀行の法務など独学では得られない貴重な体験をさせてもらった」と感謝した。

今年と同法科大学院出身者の合格者は7人で合格率は16・7%と九州地区では九州大に次いで高いが、全国的には合格率の低い法科大学院の統廃合が進む見通し。渡名喜法務研究科長は「法曹界で活躍する人材の教育機関を存続するためにも、沖縄銀行の支援は大きな支えになっている」と話した。